

かとうぜきかいらんぼん 可動堰回覧板

平成18年12月1日号 (No.17)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

回覧

可動堰本体改築工事で現在行われている工事の詳細について説明します。
今回は、連続地中壁工 (TRD工法)、鋼矢板仮締切工・袋詰玉石工についてです。

連続地中壁工 (TRD工法) について

今まで何度か説明してきた連続地中壁工 (TRD工法) ですが、現地も工事が最盛期になってきたので、あらためて説明します。

可動堰本体工事は、現在の高水敷を10m以上の深さで土砂掘削を行うことから、地下水対策が重要となるため、地下水の浸入を抑える目的で連続地中壁工を行います。

この工法は、地盤に挿入したチェーンソー型のカッターポストを進行方向 (横向き) に移動させて、土砂とセメントを混ぜ合わせ、土中に厚さ約55cm、深さ約30mの連続したコンクリートの壁をつくるものです。

作業は、現在、全体の約半分が終了し、来年1月末の完了を目指して作業をすすめていきます。

カッターポスト接続状況

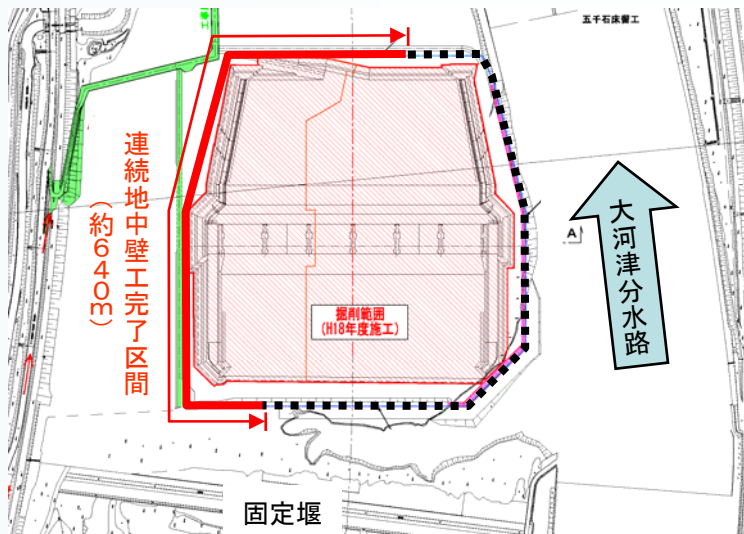


分割されたカッターポストの接続状況
(横にいる人間と大きさを比べてみてください)



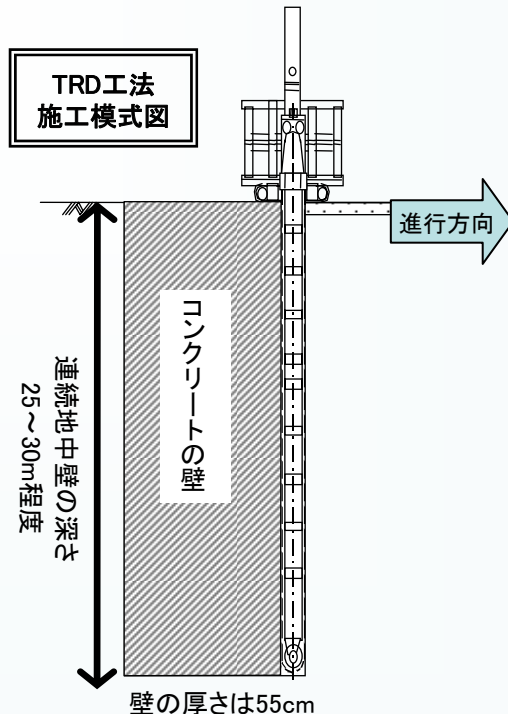
TRD施工状況 (土砂とセメントを混ぜながら少しずつ横に進んでいきます)

壁厚 55cm



連続地中壁工 (TRD工法) 完了箇所平面図

TRD工法 施工模式図

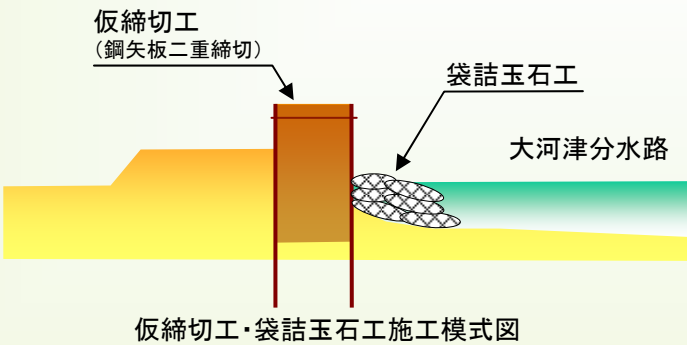


鋼矢板仮締切工・袋詰玉石工について

地下水対策は連続地中壁工を行います。洪水への対策は堤防や護岸工事でも行われている鋼矢板の仮締切工を行います。

鋼矢板の前面はいつも流れに接しているため、矢板前面の土砂が洗掘されないように袋詰玉石を並べて保護をします。袋詰玉石工はメッシュ状(ナイロン製)の袋の中に玉石を詰めたもので、形が自由に変わり河床の起伏に沿って設置できるため、水当たりを弱めたり、矢板前面の土砂が流出するのを抑えたりします。

鋼矢板仮締切工・袋詰玉石工とも到来年2月下旬に設置が完了する予定です。



現在、大河津橋より下流の大河津分水路左岸側高水敷上(JR越後線橋梁付近)で調査を実施しています。この調査は大正元年に作られた越後線橋梁の橋脚が地中でどのようなになっているのかを地中レーダーなどにより調べるものです。今年末まで現地の作業を行う予定です。

資料館からのお知らせ

11月2日撮影



大河津分水に今年も白鳥がやってきました。資料館からもカモの群れに混ざって羽を休めている白鳥を見ることが出来ます。日中はエサを探して離れてしまいがちですが、朝・晩には見ることが出来ますので、是非当地へお越しください。

『可動堰なんでも電話』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。
0258-32-3134 (平日 AM9:00~PM4:00)

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)
大河津出張所 :大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等
建設監督官(可動堰改築担当):大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

可動堰情報館
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeki/>

信濃川大河津資料館
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>

↑ アドレスが変わりました。引き続きよろしく願います。↑